

平成 26 年 5 月吉日

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

（田口班）

第 1 回コアメンバー会議

日時：平成 26 年 5 月 9 日（金） 15 時 00 分～17 時 00 分

場所：大阪国際会議場 8 階 会議室 801、802

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5-3-51

コアメンバーは以下の通りです。（下線は旅費支給対象です）

H 類縁：田口、松藤、中島、友政、（金森、渡邊（稔））

H 病：田口、家入

非特異性多発性小腸潰瘍：内田

先天性吸収不全症：位田、虫明、工藤（豊）、米倉、土岐

仙尾部奇形腫：田尻（臼井）

腹部リンパ管腫：藤野

移行期：八木、尾花

小腸移植：福澤

病理診断：中澤（欠席）

画像診断：野坂（欠席）

統計：村永（未返事）

登録と長期フォローアップ：岩中、北岡、（北川、前田、奥山）

日本小児外科学会：仁尾

日本小児栄養消化器肝臓学会：玉井

日本周産期新生児医学会：田村（代理出席：加藤）

日本小児消化管機能研究会：黒田

日本胎児治療学会：左合（欠席）

議題：

1. ごあいさつ（田口）
2. 全メンバーおよびコアメンバーの紹介（資料）
3. 先行研究および本研究の評価（田口）（資料）
4. 交付申請書および予算配分および研究計画説明（田口）（資料）
5. 研究費の使用方法について（山崎）
6. 各グループ別の先行研究の進捗状況と今年度の計画（簡単で結構です、各 5 分）
H 類縁（田口、中島）、H（家入）、小腸潰瘍（内田）、吸収不全症（位田）

腹部リンパ管腫（藤野）、仙尾部奇形腫（田尻）

7. ポケットカルテを使った疾患登録とフォローアップ（北岡、10分）
8. ガイドライン作成の経験から（友政、松藤、岩中、10分）
9. 小腸移植の位置づけについて（福澤、5分）
10. 今後の日程（田口）基本は各グループ別に進める。
コアメンバー会議で進捗状況をチェック（PSJM 会期中、年度末）
評価報告書（11月下旬）、年度報告書（2月ごろ）

ミッションのまとめ

- 1) 全国調査 初回：吸収不全症、10年毎の調査年：H病
- 2) 全国再調査や詳細調査 必要に応じて
- 3) 診断基準作成 吸収不全
- 4) ガイドライン作成 全疾患
- 5) 登録およびフォローアップ体制の構築

20140706議事録

平成26 年度厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

第1 回ガイドライン作成コアメンバー会議

日時：平成26年7月6日（日） 13時00分～15時00分

場所：聖路加国際病院旧館（チャペルのある建物）5階研修室B

東京都中央区明石町9 - 1 聖路加国際病院

<http://hospital.luke.ac.jp/index.html>

【出席者】田口、松藤、友政、黒田、川原、中島、家入、田尻、白井、河合、荒木

【欠席者】藤野（急患手術のため）

【議事録】

1. ご挨拶（田口） 厚生労働省の小慢、難病、身障者の進捗状況とこの班研究の位置づけ、今年度の方針について説明。特に用語の定義と整理について川原先生に依頼。
全国調査
ヒルシユスプルング病、吸収不全
ガイドライン作成
ヒルシユ類縁、リンパ管腫とリンパ管腫症、仙尾部奇形腫
用語の定義と整理（担当 川原）
ヒルシユスプルング病および類縁疾患（小慢病名）、短腸症（小慢病名候補）、短腸症候群、小腸機能障害（身障者病名）、小腸不全、蠕動不全、吸収不全
厚労省行政への情報提供と提言
小慢事業、難病事業、身障者事業
2. ガイドライン作成に向けて（松藤、友政） 松藤先生友政先生よりMinds2014について、「作成の手引き2014」、「ワークショップスライド集」に基づいて説明。松藤先生よりヒルシユ類縁疾患のガイドラインのアウトラインの提案があった。希少疾患なのではじめに疾患概要について説明文を入れ、その後にCQを並べていく方式が提案され、皆で議論の結果、今年度作成予定の「リンパ管腫およびリンパ管腫症」「仙尾部奇形腫」もこの様式でいくことになった。ガイドライン作成にあたり文献検索の要領などについて専門家の河合富士美先生にメンバーに加わっていただくことになり、講義をお願いした。

3. 講義（聖路加国際大学学術情報センター図書館：河合富士美先生）「エビデンスの収集から推奨まで」についてPPのスライドと資料を用いて講義、質疑応答。文献検索の対象時期について議論した。

4. 各グループの進捗状況とロードマップ

- 1) ヒルシユスプルング病類縁疾患（松藤、友政）メンバー案作成済、CQ案作成済
- 2) ヒルシユスプルング病（川原、家入）2008-2012年の症例の全国集計の準備中。九州大学の倫理委員会申請中。項目についてグループ内でさらにつめる。
- 3) リンパ管腫（藤野、発表者：黒田）CQ案作成済、CQの数が多いのでヒルシユ類縁の方針に沿って再検討する。
- 4) 仙尾部奇形腫（田尻、臼井）グループ会議開催済、会議録の説明。メンバー案作成済。
- 5) 非特異性多発性小腸潰瘍（中島）会議後に直接確認した内容。成人は日比班がなくなり、松本班になった。現在小児例に関して論文作成中。小児に特化したガイドライン作成を行うかどうかは今後検討。

5. 今後の予定・宿題（田口）

- 1) 関連・協力学会および診療ガイドライン統括委員会メンバーに承諾を得る。ひな形は友政先生がメールで田口、事務局に送る
- 2) COIの整備（7月7日友政先生より追加メールあり）
- 3) 次回までに3グループの宿題
ガイドライン作成チーム、システマティックレビューチーム（5名程度）の人選。
CQ, PICO案の作成。CQは10個以内くらいにする。
事務局は総括を九大小児外科・家入里志とし、3つのグループはそれぞれ事務局を置く。
- 4) 文献検索は河合先生が担当してくれるので、3グループすべてのシステマティックレビューチームのメンバーに入ってください。検索年度については継続審議。
- 5) 次回は9月15日（祝日）1300-1600 聖路加国際病院 会場は松藤先生が手配。

20140915議事録（案）

平成26 年度厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

第2 回ガイドライン作成コアメンバー会議

日時：平成26年9月15日（月） 13時00分～15時20分

場所：聖路加国際病院旧館（チャペルのある建物）5階研修室B

東京都中央区明石町9 - 1 聖路加国際病院

<http://hospital.luke.ac.jp/index.html>

【出席者】田口、松藤、友政、黒田、中島、藤野、川原、家入、田尻、白井、河合、荒木（出席予定者全員出席12名）

【議事録】

1. ご挨拶（田口） 前回第1回ガイドライン作成コアメンバー会議の議事録確認、および宿題の確認。診療ガイドライン総括委員会の委員10名の承諾およびCOI申告の書類がそろったところを報告。ほかのメンバーの選定の進捗状況は一覧表参照。
2. 用語の定義と整理（担当 川原）
ヒルシユスプルング病および類縁疾患（小慢病名）、短腸症（小慢病名）、小腸機能障害（身障者病名：小腸不全、蠕動不全、吸収不全）について解説。
小慢病名を厚労省が認めているのでこのままいくことにした。
3. 各グループの進捗状況と今後のロードマップ
 - 1) ヒルシユスプルング病類縁疾患（松藤、友政、黒田）
疾患概要、CQ8つの提案。類縁疾患のうち予後不良の3疾患についてガイドラインをまとめることを確認。CQごとに3疾患を論じることとした。次回までにCQをガイドライン作成グループに図り、システミックレビューチームの人選を松藤先生が行う。文献検索は2014年9月までとし、まず手始めにCIIPでやってみる。
 - 2) ヒルシユスプルング病（川原、家入）
九州大学の倫理委員会承認済み。日本小児外科学会の学術委員会の審査へ。2008-2012年の症例の全国集計の調査項目の提示。これをWeb上で行えるようにシステムづくり。経費がいくらかかるか？悉皆性を高くするには前回調査の各施設の症例数を提示、5年で1000例くらいなので予算からは謝金は1例1000円程度。今年中に調査終了予定。
 - 3) リンパ管腫（藤野）

三村班（岡山大、形成外科）と臼井班と3つの班にまたがる疾患である。使う側からは3つの班を包括するようなガイドラインをつくるほうが好ましいという意見で一致を見た。システマティックレビューチームは9名で3つの班で共通の人選としている。CQは腹部リンパ管腫に関しては治療について4つ案を作成。

4) 仙尾部奇形腫（田尻、臼井）

疾患概要、SCOPE案提示、CQ案は6個。システマティックレビューチームも構築が終わっている。ガイドラインには胎児診断や治療についてはあまり立ち入らない方向性。グループ会議開催済、会議録の説明。メンバー案作成済。

5) 非特異性多発性小腸潰瘍(中島)

九大出身岩手医大の松本班になった。現在小児例に関して内田先生が論文作成中。小児に特化したガイドライン作成を行うかどうかは成人の進捗状況みながら検討する。

6) 先天性吸収不全症（友政）

10月11日グループ会議開催予定。全国調査の準備段階。

4. 今後の予定・宿題（田口）

1) 文献レビューのフォーマットについて実際に論文をみながら書きやすいものをつくるほうがいい（友政提案、松藤受け）

2) 文献のレビューはCQおよびkey wordsおよびPIC0から実施する。担当は河合先生が担当し、経費は班研究全体として班長の九州大学からまとめて支払う。

5. 次回は全体班会議を12月21日（日）1300-1600 聖路加国際病院 会場は旧病棟5階、研修室A(100名弱収容可)、研修室B（本日の会場20名収容）。必要に応じてグループ会議も開催できるように場所確保。

文責：田口智章

平成 26 年 12 月吉日

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

全体班会議のご案内

各 位

拝啓 初冬の候、先生方におかれましてはますますご健勝の事とお喜び申し上げます。平素よりご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

田口班全体会議が下記の日程で開催となりますのでご案内申し上げます。ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、ご出席の程宜しくお願い申し上げます。

敬 具

記

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）

「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

（研究代表者 田口 智章）全体班会議

日時 : 平成26年12月23日（火・祝） 13時00分～16時00分

場所 : 聖路加国際病院 旧館（チャペルのある建物）5階 研修室A

東京都中央区明石町 9 - 1 聖路加国際病院

<http://hospital.luke.ac.jp/index.html>

電話 : 03-3541-5151（代表）

アクセス : 別添 案内図参照

[はじめに] 研究代表者あいさつ 田口智章

[講演]

1. エビデンスの少ない場合のガイドライン作成方法（15分）

聖路加国際病院院長、日本医療機能評価機構Minds 診療ガイドライン選定部会部会長
福井次矢 先生

2. Systematic Reviewについて（30分）

聖路加国際大学学術情報センター図書館マネジャー 河合富士美 先生

[議題]

1.各グループの進捗状況（各8分）

- ①ヒルシュスプルング病類縁疾患（松藤、友政）
- ②ヒルシュスプルング病（家入、川原）
- ③腹部リンパ管腫・リンパ管腫症（藤野、黒田）
- ④仙尾部奇形腫（田尻、白井）
- ⑤非特異的小腸潰瘍（内田、中島）
- ⑥先天性吸収不全症（位田、虫明）

2.小腸移植の適応や体制づくり(8分)（福澤、上野）

3.疾患登録やフォローアップ体制の構築について(8分)（岩中 2分、北岡 6分）

4.ガイドラインにおける成人へのトランジションについて(8分)（尾花、中島）

5. 研究成果申告書および研究費について（山崎）

6.今後の予定について（田口）

以上

九州大学大学院医学研究院

小児外科 田口 智章

【お問い合わせ先】

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院医学研究院 小児外科

事務担当：山崎 智子

TEL: 092-642-5573, Fax: 092-642-5580

E-mail : ped-surg@pedsurg.med.kyushu-u.ac.jp

2014.5.9 於：大阪国際会議場

参加者：田口、家入、友政、松藤、田尻、藤野、内田

途中参加：虫明、工藤

1. メンバーについて

統括委員会のメンバー：田口、仁尾、玉井、田村、吉田 (MINDS)、(友政)

事務局：家入、小幡、江角、山崎

各疾患の作成グループとシステマティックレビューチーム：

リーダー H 類縁：松藤

H 病：秋山

吸収不全：位田

小腸多発性非特異性潰瘍：内田

腹部リンパ管腫：藤野

仙骨奇形種：田尻

リーダー以外のメンバーと SR チームはリーダーの推薦をうけて、統括委員会で
決定の予定

作成チームは概ね 4～10 人、SR チームは 2～ とする

外部評価委員

MINDS から (吉田先生の推薦をうける：友政)

短腸の会から

日本外科学会や日本小児栄養消化器肝臓学会からは？

2. 内容について

- ・内容は網羅的である必要はないか (診断と治療を中心)
- ・リンパ管種は、このガイドラインでは腹部に限る予定
- ・H 類縁は 3 疾患をまとめて一つの GL に

3. 作業予定について

- ・完成は同時でなくてもよい
- ・吸収不全は、遅れてスタート予定 (今年度後半?)
- ・H 病は、全国調査の作業が終わってから
- ・小腸潰瘍は、日比班の動向をみて
- ・他の 3 疾患については、スタート
- ・まず H 類縁疾患が雛形を作成する

7月6日(日) 13:00 から聖路加国際で、3疾患のリーダーと田口、家入、河合、友政が集まり、その雛形を参考に、SCOPE 作成にかかわる共通のルールを決める(CQの数と立て方、エビデンスの集め方、コンセンサスの得方など)

4. まずは、

- 田口先生から、統括委員にメールで就任のお願いをしていただく
各学会に協力の要請をしていただく
- 松藤先生にH類縁のスコープを書いてみていただく

平成26年度厚生労働科学研究費補助金（小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究）田口智章班

Hirschsprung 病類縁疾患・ガイドライン作成グループ 会議

2015.02.13 大宮

パレスホテル大宮 4F シクラメン・ライラック 14:00-15:30

出席者 田口（班長）、松藤（グループリーダー）、友政、位田、春間、眞部、漆原、渡邊、内田、下島、上野滋、瓜田、工藤孝広、荒木、曹、住田、深堀、山田佳之、河合

渡邊芳夫先生が3月で退職。4月から研究協力者として参加。代わりに同施設の住田亙先生に分担研究者に加わっていただくことにする。

議題

1. システマティックレビューの進め方 聖路加国際大学・河合富士美（PP 資料）

2. エビデンス表の記載方法 聖路加国際病院 荒木夕宇子（Excel 資料）

3. ガイドライン作成チーム 役割（Excel 資料）

4. 質疑応答

現在河合さんがピックアップしている文献数が英文 500、邦文 200 で合計 700、まずこれを荒木先生を中心に聖路加小児外科にて一次スクリーニングすることになった。

つぎにこれをシステマティックレビュー(SR)チームに分配して、エビデンス表を作成する。現在のガイドライン作成チーム、およびシステマティックレビュー(SR)チームの構成を確認し、メンバーに関する質疑応答を行った。その結果、ガイドライン作成チームのメンバーの入れ替えおよび追加が行われた。また SR チームはメンバー数が少ないので若手を中心に各施設から人を出してもらおうようにお願いすることにした。

5. 今後の日程（松藤案）

- ・ 作成目的の明確化
- ・ 作成主体の決定
- ・ 事務局・診療ガイドライン作成組織の編成

	ガイドラインチーム	システマティックレビューチーム	
2015.01.31	Scope 作成, 文献検索	チーム編成	
2015.03.31	Hirschsprung 病類縁 7 疾患の基本的特徴の締め切り		
		システマティックレビュー	
2015.08.31	推奨文作成		
2015.12.31	診療ガイドライン草案		

平成26年度厚生労働科学研究費補助金（小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究）田口智章班
 Hirschsprung 病類縁疾患・ガイドライン作成グループ 会議
 2015.02.13 大宮

2016	パブリックコメント		
2016	公開		
	普及・導入・評価		
	改訂		

上記の提案をうけて、討論した結果、以下のようになった。

- 2015.03.31 Hirschsprung 病類縁7疾患の基本的特徴の締め切り（疾患グループ長）
- 2015.04.30 文献の一次スクリーニング終了（荒木先生他）
- 2015.07.31 システムティックレビュー終了（SR チーム）
- 2015.08.31 SR チームの作成したエビデンス表を CQ 別に分類（荒木、河合）
- 2015.09.01 そのデータをガイドラインチームに送り、ガイドラインチームがまとめと推奨文の草案にとりかかる。

2015年9月下旬 班会議開催し CQ 別に進捗状況を発表。

次のロードマップ

- 2015.10.31 推奨文草案完成
- 2015.12.31 ガイドライン草案完成
- 2016年 パブリックコメント
- 2016年3月 公開

公開法：Minds の HP、研究班の HP、難病情報センターの HP、日本小児外科学会の HP、日本小児栄養消化器肝臓学会の HP、日本小児消化管機能研究会 HP、冊子体の作成は？メジカルビュー社との交渉では研究費 150 万円程度支出すれば出版可能。

文責：田口智章・松藤 凡・河合富士美

平成 26 年度 第 1 回
田口班「腹部リンパ管疾患」サブグループ会議

議事録

日 時： 平成 26 年 7 月 12 日（土） 16 時 ～17 時
場 所： 八重洲倶楽部 第 8 会議室
東京駅八重洲地下街

☆ 出席者：

(分担研究者)

上野滋、岩中督、松岡健太郎、木下義晶、小関道夫、藤野明浩

(研究協力者)

出家享一（東京大学）

(オブザーバー)

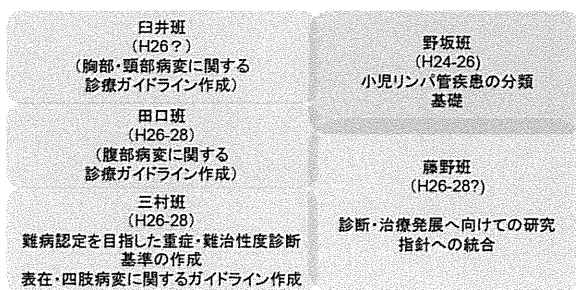
臼井規朗

以上 8 名

☆ 議事録

1, 各研究班の業務内容の整理

リンパ管疾患各研究班の関係



・リンパ管疾患に関連する各研究班の役割分担と目的の相違を確認した。

2, 田口班における業務確認

大きく2つの研究の柱がある

1, ガイドライン作成

2, 調査研究

現時点までの情報をまとめる作業であるガイドライン作成と研究として新たな有益な情報を導き出すための調査研究を行う。

リンパ管疾患サブグループとしてはこの2つを可能な限り進めて、進捗を報告し研究班全体に貢献したい。具体的にどこまで進めるかは明確にできなかった。

3, ガイドライン作成について

ガイドラインの構成について

・臼井班、三村班と3班にまたがっているが、ガイドラインとしては統合して出版する方が患者やその他読者のためになるだろうと考えられる。田口班全体会で提案する。(臼井班臼井班長は基本的に合意するが、班全体の意見を確認必要と。)

クリニカルクエスチョン

- ・前田口班時代に作成したものからさらに選別していく。30項目に絞ったがさらに絞る必要あり。これから臼井班で行ったのと同じような選別・合併作業をメール審議にて進めていく。
- ・9月までにCQ作成し、田口班会議にて提示予定。

ガイドライン作成チーム及びシステマティック・レビュー・チーム

- ・基本的に臼井班のチームと重複する。その方が効率は良い。
- ・具体的メンバー

Guideline Group	代表	氏名	所属機関/専門分野
	○	藤野明浩	慶應義塾大学小児外科/小児外科
		森川康英	国際医療福祉大学/小児外科
		上野滋	東海大学/小児外科
		岩中啓	東京大学/小児外科
		小関道夫	岐阜大学/小児腫瘍
		野坂俊介	国立成育医療研究センター/病理診断
		松岡健太郎	国立成育医療研究センター/画像診断

Systematic Review Team	氏名	所属機関/専門分野
	木下義晶	九州大学小児外科/小児外科
	平川均	東海大学八王子病院/小児外科
	日比将人	藤田保健衛生大学/小児外科
	樋口恒司	京都府立医科大学/小児外科
	前川貴伸	国立成育医療研究センター/小児科
	大野通輔	国立成育医療研究センター/小児外科
	狩野元宏	国際医療福祉大学/小児外科
	出家亨一	東京大学/小児外科

- ・ Systematic Review Team の Leader は木下義晶先生。

関連各科の意見の求め方

- ・他の関連臨床各科への意見をすべて統合するのは、この研究班で話し合っただけで作ったガイドライン案に対して意見を求めるという順序とする。
- ・ただしあらかじめ SCOPE が作成された段階で関連各科へ伝えて意見を求めておく。

外部監査委員について

- ・外部委員については田口班で全体の流れの確認をおねがいしている吉田先生に腹部リンパ管疾患サブグループの進捗のチェックを受けることが出来る。

4, 調査研究について

・腹部の調査項目は昨年列挙された CQ に対する回答を得るため調査項目として選択されていたが、それぞれの項目の「定義」が重要であることが新たに反省されたため、それぞれの項目について付け加えた。

- ・新たに加えられた定義を含めて調査項目に対するコメントを既に受けており、これを確認した。

資料:「腹部リンパ管疾患調査項目」に沿ってあらかじめ集めていたコメントについて確認し、「腹腔内リンパ管腫調査項目 20140712」まとめた。(添付書類参照)

- ・胸部の方の調査項目をまとめたら同時に進める。
- ・主研究機関の倫理審査、小児外科学会の学術・先進医療検討委員会の合意を得るのに時間がかかるので注意が必要。

5, 次回会議について

- ・メール連絡にて調整・決定することとなった。

以上

文責 藤野明浩

平成 26 年度 第 2 回 (通算第 10 回)
田口班「腹部リンパ管疾患」サブグループ会議
～同時開催～

平成 26 年度 第 3 回 臼井班「頸部・胸部リンパ管疾患」サブグループ会議

議事録

日 時： 平成 26 年 10 月 31 日 (金) 16:00-17:15

場 所： 淡路島夢舞台国際会議場 2F ロビー

☆ 出席者：

(分担研究者) 木下義晶、藤野明浩

(研究協力者) 出家享一

☆ 議事録

1, 診断基準、重症度・難治性度診断基準について

・藤野より報告。三村班より厚労省へ書類を提出。

(資料：リンパ管奇形 (リンパ管腫) 資料三村班最終.doc)

2, システマティック・レビューについて

・一次スクリーニングの結果報告 (木下・出家)。

#, エビデンスレベルの高いスタディは見られなかった。

#, PICO を整えてもそれに合致する論文が見られない。

#, おそらくエキスパート・オピニオンによる推奨文しか出来ないのではないか。

3, 臼井班、田口班調査研究の進捗について

・腹部調査項目確認→特に意見なし。

・胸部・頸部調査項目についてはリストアップはなされており、これから統合作業を行う。

・乳び胸水については入り口から分ける必要がある。

(資料：リンパ管研究登録サイト構想 20141010.ppt)

4, ウェブサイト「リンパ管疾患情報ステーション」について

・各研究班の調査システム作成してもらうことを確認

(資料：リンパ管研究登録サイト構想 20141010.ppt)

5, 小児リンパ管疾患シンポジウムお知らせ

(資料：20150215 薄黄色 version.pptx)

6, 今後の予定について

- ・各 CQ におけるアウトカムを明記する。
- ・木下・出家にて一次スクリーニング完成し、SR チームメンバーに詳読を依頼する。
11月20頃までに結果を集める。
- ・その後直ちに推奨文の作成にかかる。
- ・11月29日もしくは30日に小児がん学会会場にて集まってまとめた上で、三村班 CQ については提出。

議事録

3, システマティック・レビュー

平成 26 年度 第 2 回 (通算第 10 回)
田口班「腹部リンパ管疾患」サブグループ会議

～同時開催～

平成 26 年度 第 3 回 臼井班「頸部・胸部リンパ管疾患」サブグループ会議

議事録

日 時： 平成 26 年 11 月 1 日 (土) 8:30-9:30

場 所： 淡路島夢舞台国際会議場 2F ロビー

☆ 出席者

(分担研究者) 上野滋、岩中督、藤野明浩

(研究協力者) 出家享一 (東京大学)

☆ 議事録

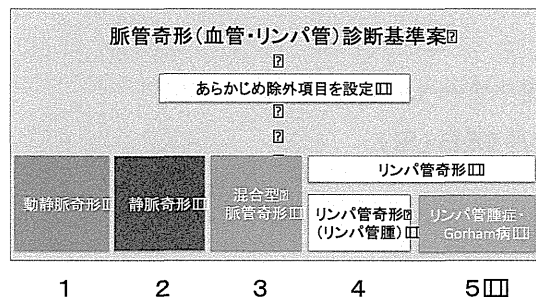
1, 診断基準、重症度・難治性度診断基準について

・藤野より、三村班において診断基準、重症度・難治性度分類がまとまったことを報告。

・特に議論はなし。

・添付資料

診断基準作成の方向性確認



旧三村班にて作成した大まかな診断基準の下、以上5つの別々の診断基準を作る。

2, 臼井班、田口班ガイドライン作成、システマティック・レビュー作業について

・SR 一次スクリーニングにてエビデンスレベルの高い文献は存在しないことが明らかとなった。

・PICO に当てはまる論文はなく、Minds2014 の手引きで推奨される方法に乗ることは不可能。

・推奨文はエキスパート・オピニオンを統合し、各方面からの承認を受けていく形となる。

・SR チームが今後二次スクリーニングを行う際に着目すべき点について話し合われた。

・詳細は末尾資料参照

3, 臼井班、田口班調査研究の進捗について

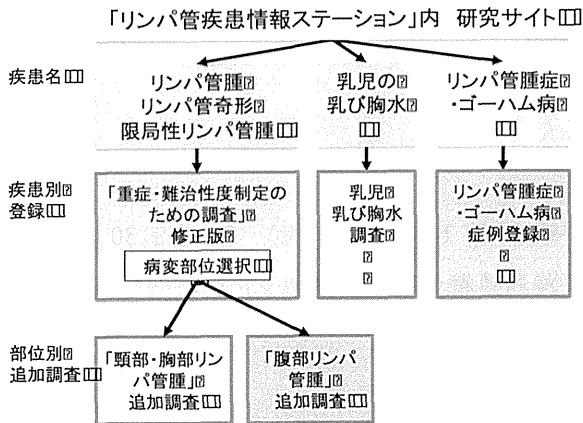
・田口班調査研究項目は前回 7/12 の会議後の修正を行った。資料。

・今後臼井班研究項目の完成を待つと同時に開始予定。

・臼井班研究課題それぞれについて調査項目は列挙された。これを速やかに整理することをこれ

からの課題とする。

図のように組み込む



- 4, 小児リンパ管疾患シンポジウムお知らせ
- ・ 2015/2/15 成育センターにて開催予定。

第1回 小児リンパ管疾患シンポジウム

lymphatic disease

テーマ

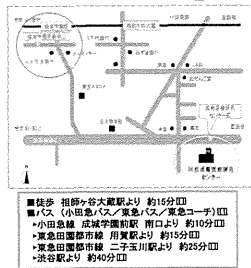
『リンパ管腫？リンパ管腫症？ゴーン病？』

日時: **2015年2月15日(日)**
開催場所: 国立成育医療研究センター 1階 講堂

プログラム



【午前の部】
10:00-1:00 シンポジウム
「基礎研究、疾患概念」
対象: 医療従事者 6 研究者



【午後の部】
13:00-1:00 公開シンポジウム
「現在の診療」
15:00-1:00 交流会
対象: 患者・家族、医療従事者

主催: 成育医療研究開発費 24-19 小児リンパ管疾患研究班 (野坂俊介代表)
共催: ??????
問い合わせ: 事務局 2ujino-a@ncchd.go.jp

5, 次回会議について

- ・ 日本小児血液・がん学会の 10/29 (土) 11 時より最長 13 時まで。岡山。

2014/11/2
文責 藤野